三菱食品株式会社

2024年3月期

第2四半期決算説明資料

2023年11月1日

三菱食品

【お知らせ】
当社は2023年9月29日に
「統合報告書 2023」
を発行致しました。

目次

1 2024年3月期　第2四半期決算概要

2 持続可能な安定成長を目指して

１．2024年３月期　第2四半期
決算概要

連結業績（前期比）

◆「売上高」は、本格的な人流回復によりCVSや業務用取引等を中心に全般的に取引が伸長し増収
◆「経常利益」は、取引伸長や採算管理強化による利益率の改善等により増益

（単位：億円）

	23.3期 第2四半期	24.3期 第2四半期	前期比増減	
			額	率（%）
売上高	9,986	10,422	436	4.4
売上総利益　※	713	733	21	2.9
販管費　※	▲612	▲597	16	2.5
物流費	▲299	▲290	10	3.3
人件費	▲194	▲189	6	3.0
その他	▲118	▲118	▲0	▲0.1
営業利益	101	137	36	35.9
経常利益	111	147	36	32.3
親会社株主に帰属する四半期純利益	75	102	27	36.3

※ 2023年4月より子会社の一部取引形態の変更に伴い、以下の勘定科目で30億円強の影響があります。
影響額控除後の前期比増減は、売上総利益 +53億円（+7.9%）　販管費▲15億円（▲2.7%）　となります。

業績予想の修正

◆足元の業況を踏まえ、期初に公表した予想を上回る業績が見込まれるため、通期業績予想を修正

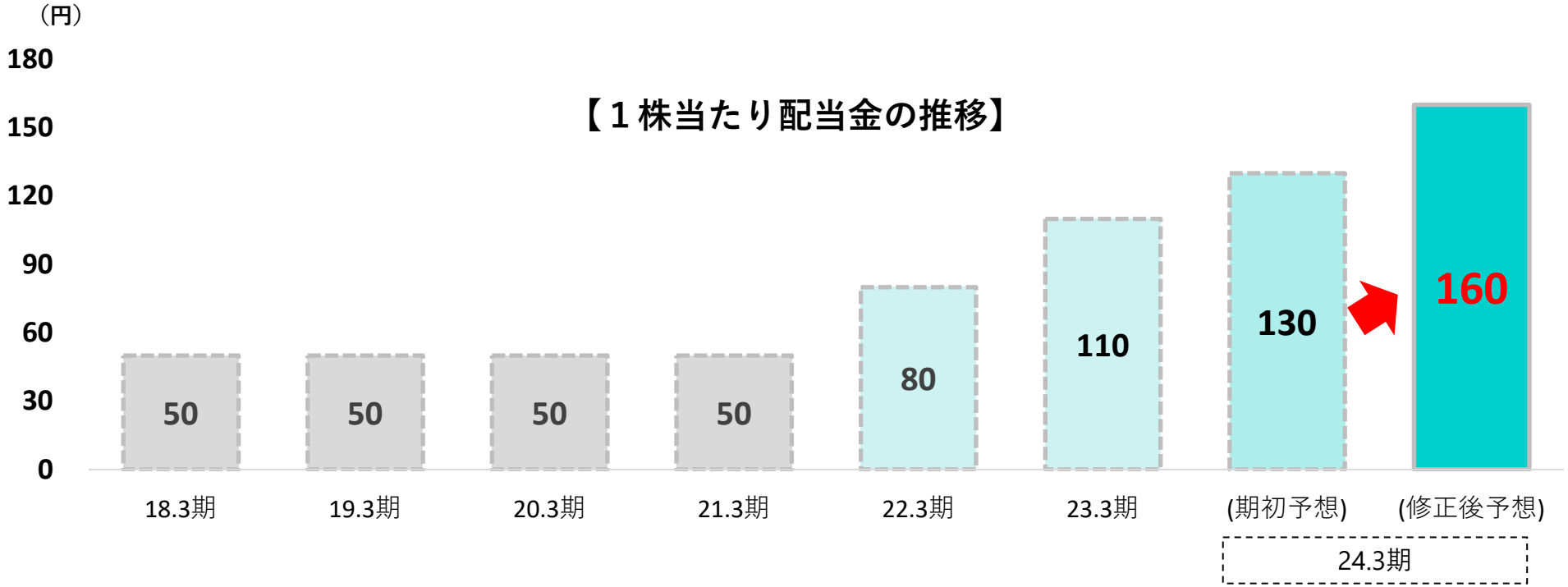
◆経常利益は260億円から過去最高の310億円に上方修正

（単位：億円）

	23.3期 通期実績	24.3期 通期連結業績予想		前期比増減		期初予想比
		期初予想	修正予想	額	率(%)	額
売上高	19,968	20,200	20,800	832	4.2	600
営業利益	234	243	290	56	23.8	47
経常利益	252	260	310	58	23.0	50
親会社株主に帰属する当期純利益	171	175	220	49	28.5	45

配当予想の修正

● 配当予想を130円から160円に修正（増配）

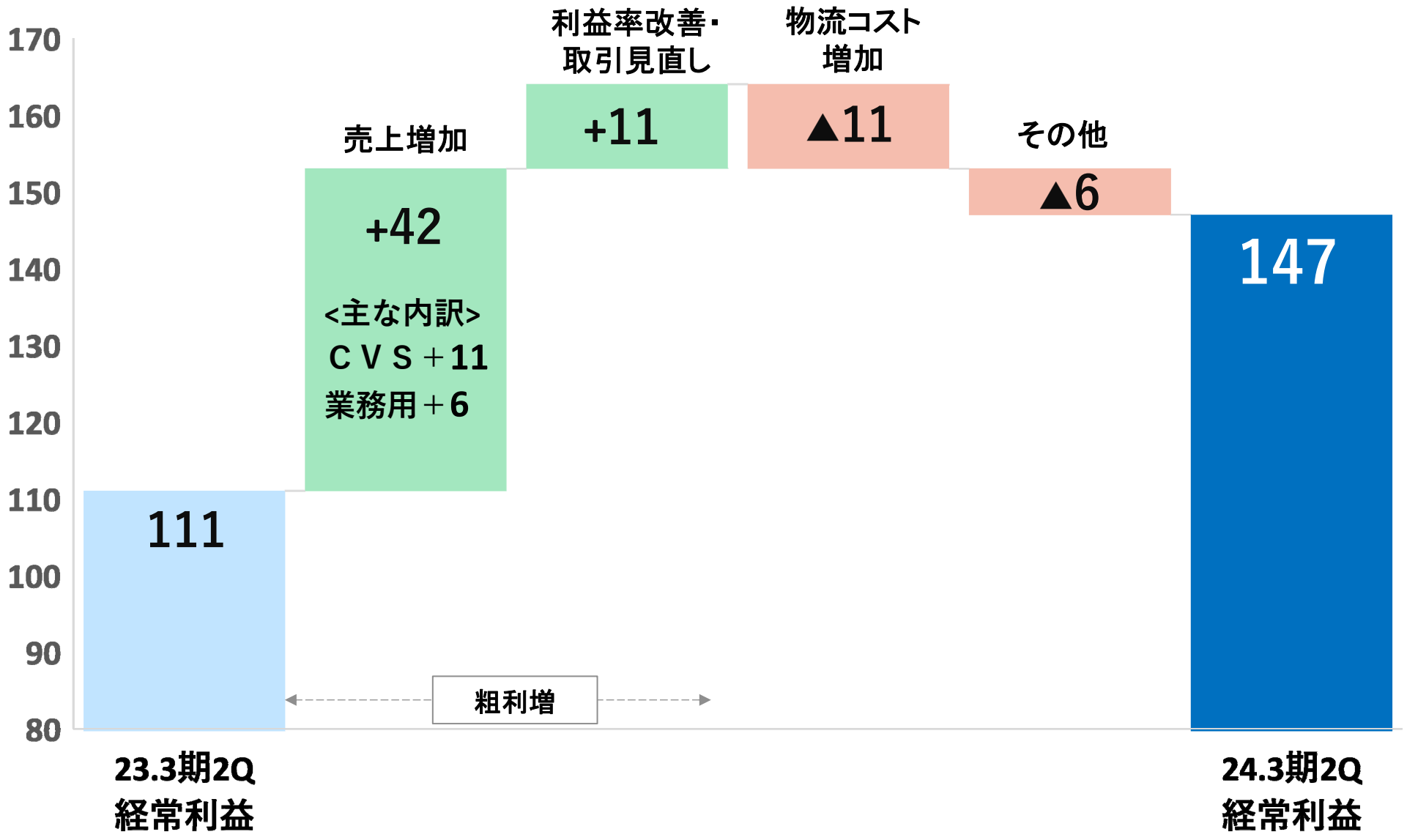


１株当たり配当金	第２四半期	期末	年間
期初予想 (2023年5月11日)	円 銭 65.00	円 銭 65.00	円 銭 130.00
今回修正予想 (2023年度通期予想)	80.00	80.00	160.00

※業績予想の修正に伴い、「中経2023」で掲げた株主還元施策に基づいて、配当予想を修正

経常利益の増減要因（前期比）

（単位：億円）



セグメント別業績

◆「加工食品」は、CVSやDSの売上高増加及び取引の見直しに伴う採算性の向上等により増収・増益
◆「低温食品」は、SM・CVSとの取引伸長や業務用の復調等による売上高増加及び採算性の向上等により増収・増益
◆「酒類」は、業務用の復調やドラッグストアとの取引伸長及び猛暑による影響等により増収・増益
◆「菓子」は、CVSを中心とした取引伸長及び採算性の向上等により増収・増益

（単位：億円）

	売上高		営業利益		売上高	営業利益
	24.3期 第2四半期	前期比 増減率 (%)	24.3期 第2四半期	前期比 増減率 (%)	24.3期 通期 修正後 業績予想	
加工食品	3,339	1.6	34	35.5	6,720	71
低温食品	3,140	7.0	80	25.9	6,148	150
酒類	2,572	2.9	14	37.4	5,037	38
菓子	1,371	8.2	16	65.1	2,895	46
調整	－	－	▲8	－	－	▲15
合　計	10,422	4.4	137	35.9	20,800	290

※ 24.3期の業績管理区分の一部見直しに伴い、増減率は23.3期実績を組替えた後の数値で算出しております。

品種別売上高

◆「菓子類」は、CVS等を中心に取引が伸長したことや米菓の回復等により増収
◆「冷凍・チルド食品類」は、SM・CVS等を中心に取引が伸長したことや業務用の復調等により増収

（単位：億円）

	23.3期 第2四半期		24.3期 第2四半期		前期比増減	
	金額	構成比（%）	金額	構成比（%）	金額	率（%）
缶詰・調味料類	1,177	11.8	1,197	11.5	21	1.8
麺・乾物類	684	6.8	703	6.7	19	2.7
嗜好品・飲料類	1,159	11.6	1,170	11.2	11	1.0
菓子類	1,259	12.6	1,360	13.0	101	8.0
冷凍・チルド食品類	2,424	24.3	2,584	24.8	159	6.6
ビール類	1,367	13.7	1,404	13.5	37	2.7
その他酒類	1,014	10.2	1,049	10.1	35	3.4
その他	902	9.0	956	9.2	53	5.9
合計	9,986	100.0	10,422	100.0	436	4.4

業態別売上高

◆取引先との付加価値の高い取り組みに加え、インバウンドを含めた人流回復による取引伸長により全業態で増収
◆「CVS」は、インバウンドを含めた本格的な人流回復や猛暑の影響等により増収

（単位：億円）

	23.3期 第2四半期		24.3期 第2四半期		前期比増減	
	金額	構成比（%）	金額	構成比（%）	金額	率（%）
卸売	969	9.7	1,039	10.0	70	7.2
SM	4,692	47.0	4,741	45.5	49	1.1
CVS	1,872	18.7	1,994	19.1	122	6.5
ドラッグストア	845	8.5	879	8.4	34	4.0
ユーザー（注1）	200	2.0	246	2.4	46	23.1
その他直販（注2）	1,152	11.5	1,245	11.9	93	8.1
メーカー・他	256	2.6	278	2.7	22	8.4
合計	9,986	100.0	10,422	100.0	436	4.4

（注）1. ユーザーは外食・中食・給食等消費者へ直接飲食サービスを提供する事業者であります。
（注）2. その他直販はディスカウントストア・EC事業者・ホームセンター・百貨店等であります。
※ 24.3期の業態区分の一部見直しに伴い、23.3期実績を組替えております。

成長戦略の進捗状況

◆「メーカーサポート」は、デジタル分野への先行投資の影響等により減益
◆「商品開発」は、取扱増加も為替の影響や物流コスト上昇もあり横ばい
◆データ×デジタルを活用した当社独自の新たな需要創造、輸入代理店機能・情報価値創造型商品開発機能を強化

（単位：億円）

	経常利益		
	23.3期 第2四半期	24.3期 第2四半期	24.3期 修正後業績予想
メーカーサポート	14	12	26
商品開発	4	4	10
リテールサポート	101	138	290
小　計	120	155	326
その他・調整	▲9	▲8	▲16
合　計	111	147	310

投資等の状況

◆設備投資は、既存物流センターの庫内設備の更新投資等を実施
◆事業投資は、DDマーケティング領域やスタートアップ企業等への投資を実施

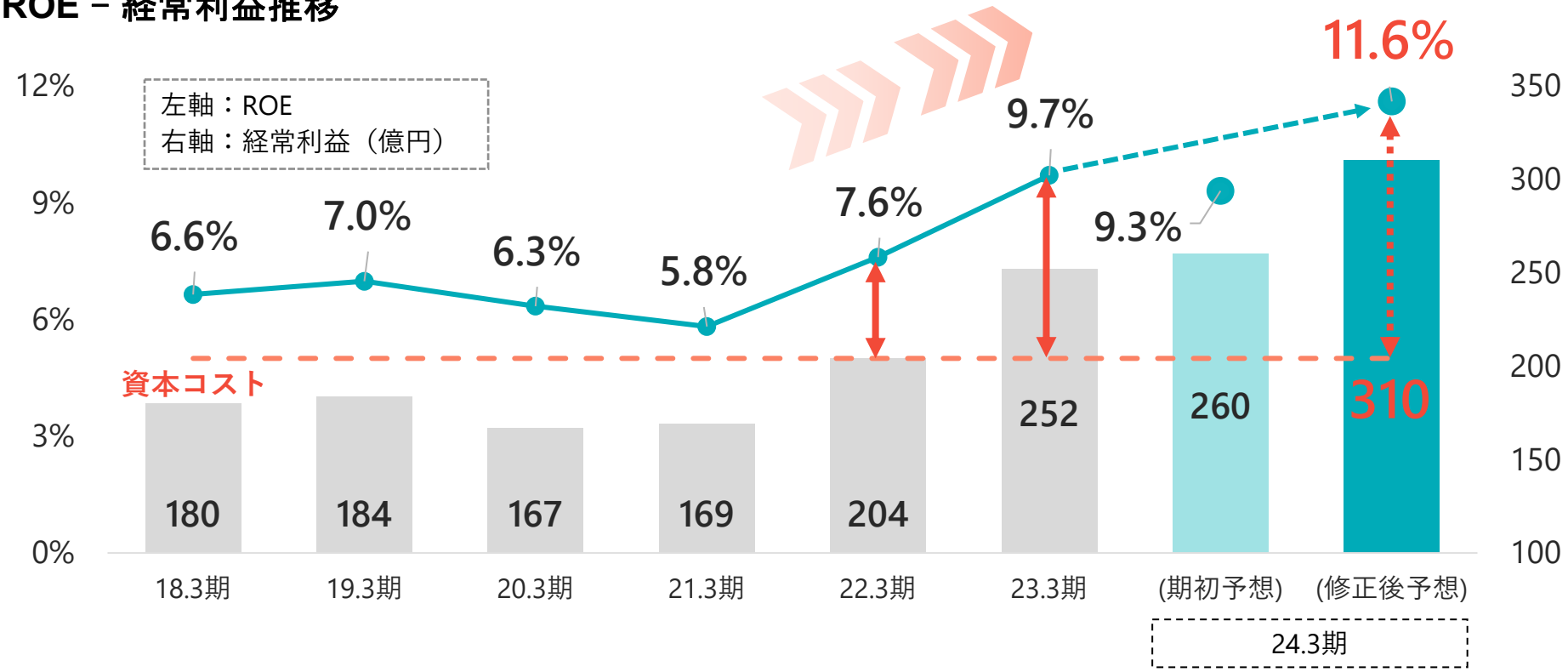
（単位：億円）

	投資額		償却額・支払リース料	
	24.3期 第2四半期	24.3期 通期予想	24.3期 第2四半期	24.3期 通期予想
設備投資 （リース含む）	32	60	33	70
システム開発等	17	40	26	50
事業投資	7	50		
合　計	55	150	59	120

ROE推移

◆24.3期の予想ROEは11.6%と、二桁の大台を超える見込み。

ROE – 経常利益推移

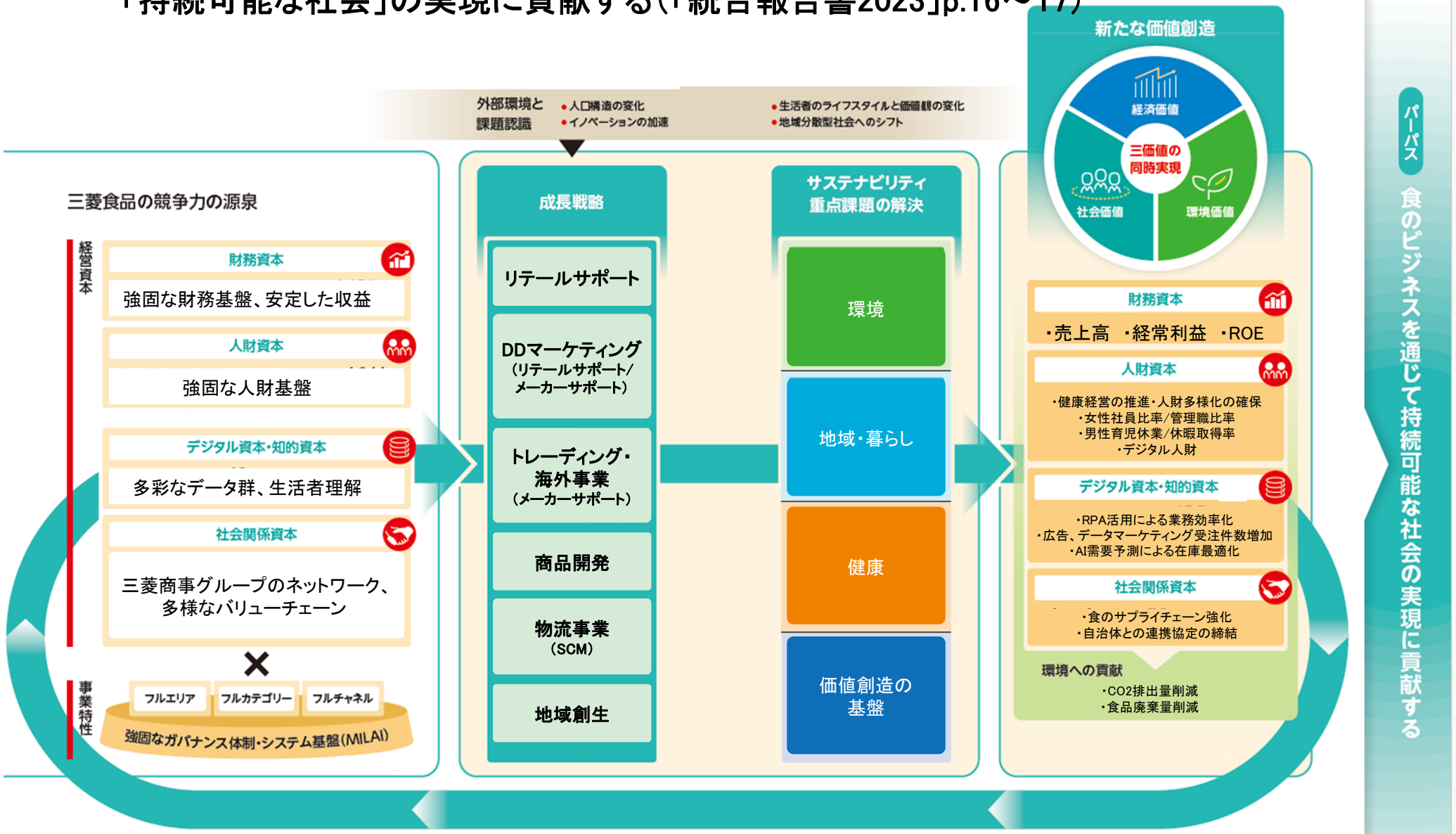


ROE	=	分子	・人流回復等追い風を捉えた取引伸長 ・不採算取引の継続的な見直し ・付加価値創出取引へのシフト
		分母	・バランスシートマネージメント ・積極的な株主還元

２．持続可能な安定成長を目指して

価値創造ストーリー

- さまざまな事業環境の変化に柔軟に対応し、新たな付加価値を生み出すことで、「持続可能な社会」の実現に貢献する(「統合報告書2023」p.16～17)



「中経2023」における事業環境の振り返り

- 様々なコスト上昇に起因する「コストプッシュ型インフレ環境」に変化（継続的値上げ）
- 長年にわたる取引先・得意先との「戦略的パートナーシップ強化」と、継続的な「機能向上・効率化の取り組み」が奏功

外部要因

- コロナを経て、様々な社会の変化が加速
- サプライチェーン上の様々な歪みの顕在化
- デジタル技術の進化・高度化

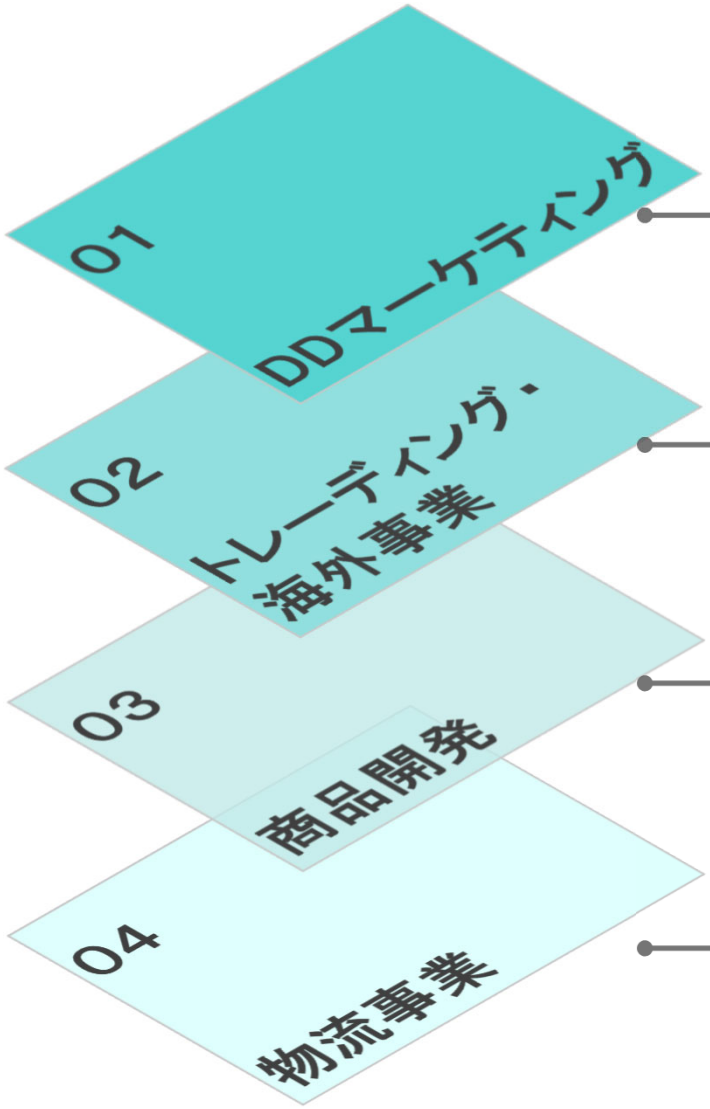
内部要因

- 機能向上・効率化の継続的推進
- 戦略的パートナシップの深耕
- 環境変化に合わせた継続的経営基盤強化

持続可能な食品流通を実現するために、今後も外部要因の変化に合わせて、継続的にサプライチェーンの最適化と整流化を推進し続ける

成長に向けた取り組み状況（2023年上期）

- 「中経2023」の総仕上げとして、将来のあり姿を見据えた準備の年とすべく、成長戦略（次世代流通業への進化）を加速する



- 生活者行動データ・プラットフォーム運営企業（unerry社）と資本業務提携を締結（「DDマーケティング・プラットフォーム」の共同開発を加速）

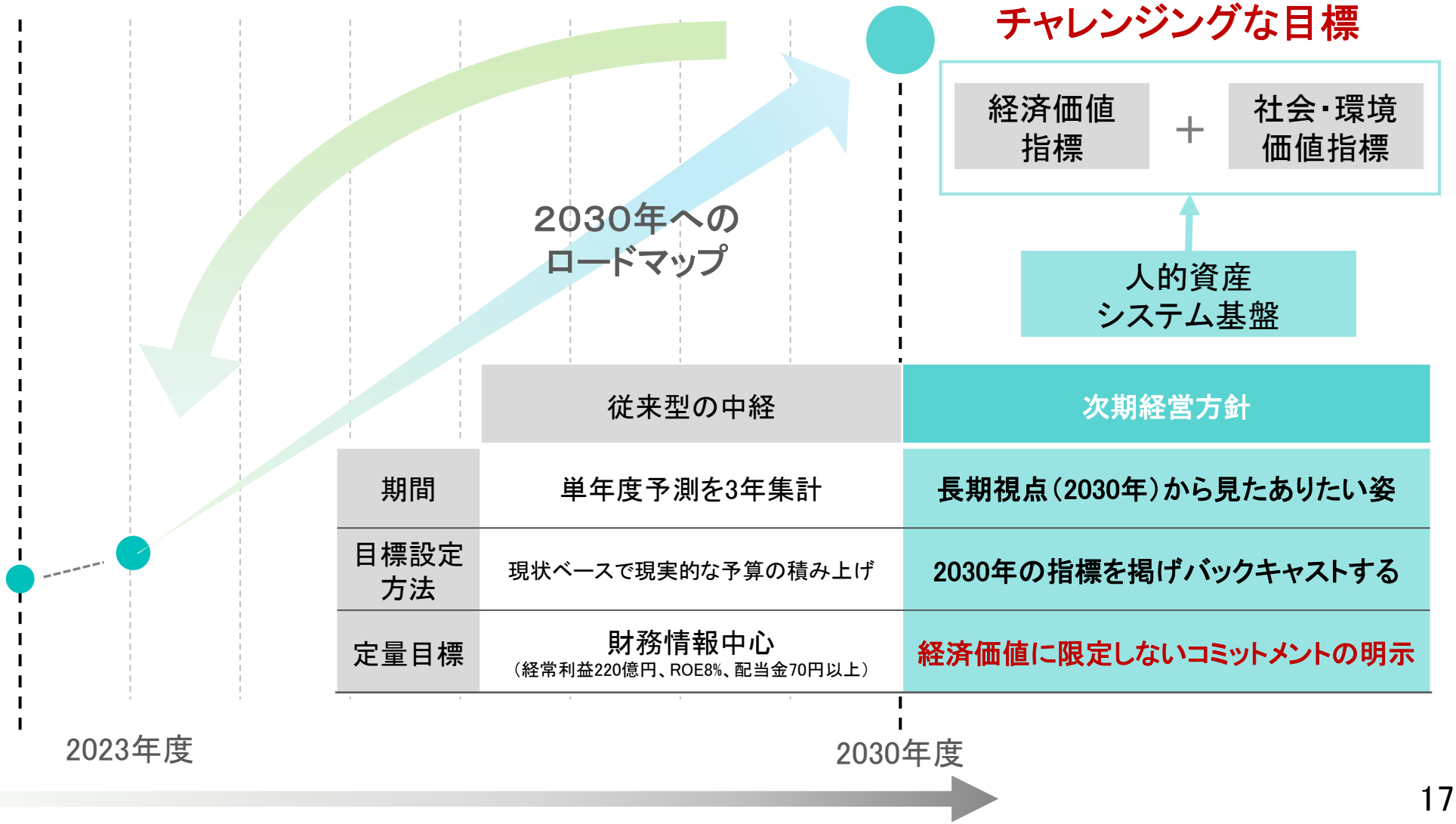
- 米国・ベトナムでの事業展開に向けたスタートアップ企業との連携をスタート
- オリジナル商品を中心に輸出金額は前年対比約1.2倍となる見通し

- 日本国内市場におけるリンツブランドチョコレート製品の正規販売代理店として指定を受け、6月1日より全国にて販売を開始

- 車両空きスペースのシェアリング・サービス（trucXing）開始や、動態管理システム（Hacobu社「MOVO Fleet」）の導入、入荷受付・予約システムの導入拡大
- キユーソー流通システム社との合弁会社設立及び業務提携による首都圏エリアの低温物流事業を共同推進（2024年度～）

「次期経営方針」イメージ

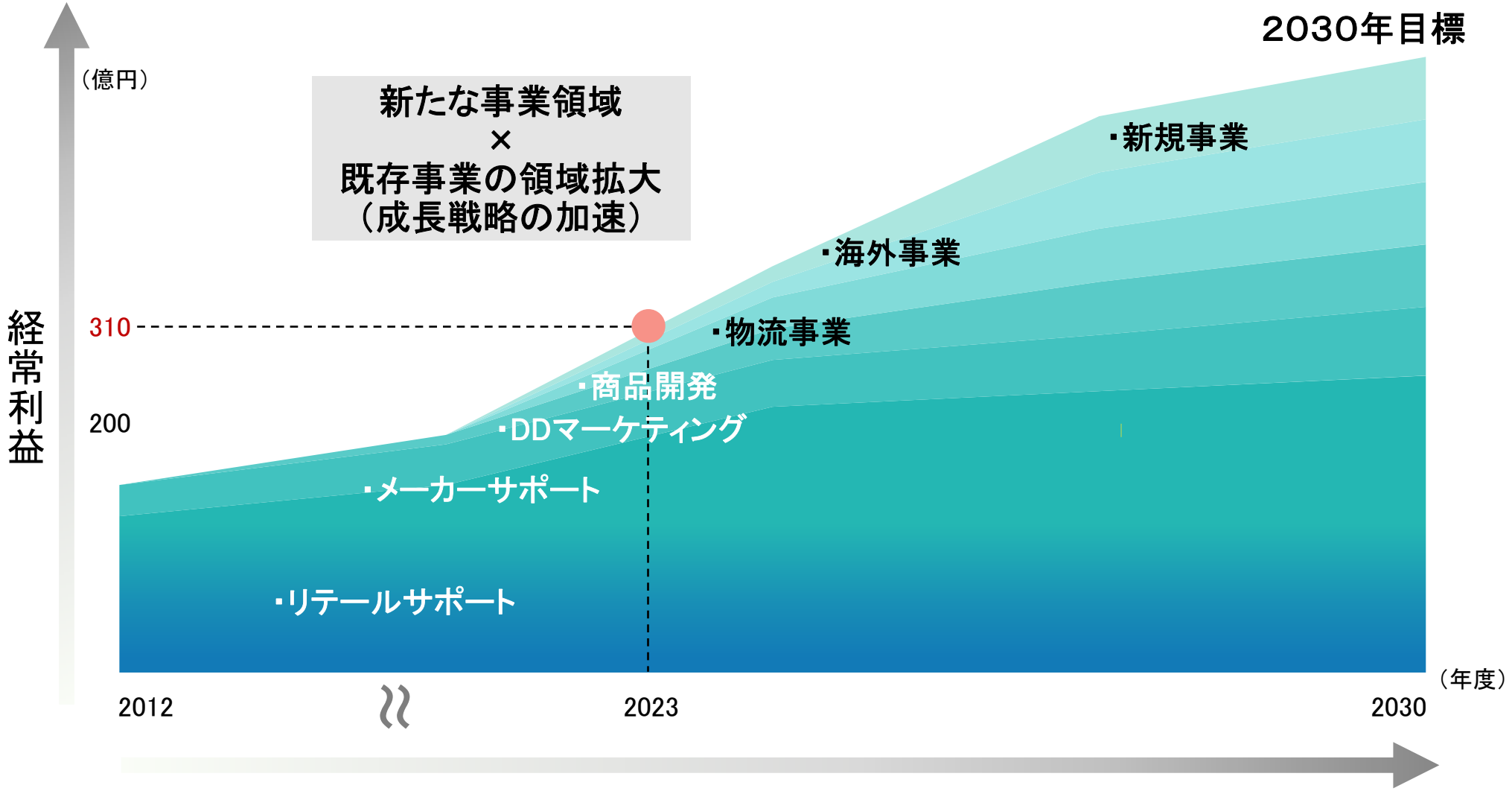
- 過去の中経を踏襲することなく、新たな価値や事業モデルの変革を追求する
- 緻密な数値を作り込む中経策定を廃止し、2030年の「ありたい姿」からバックキャストで目標を見定める



	従来型の中経	次期経営方針
期間	単年度予測を3年集計	長期視点（2030年）から見たありたい姿
目標設定方法	現状ベースで現実的な予算の積み上げ	2030年の指標を掲げバックキャストする
定量目標	財務情報中心 （経常利益220億円、ROE8%、配当金70円以上）	経済価値に限定しないコミットメントの明示

「2030年目標」の再設定

- 「中経2023」を経て、安定収益基盤は300億円規模に拡大（経常利益）
- 「次期経営方針」では、新たな事業領域・成長分野への投資や人員シフトを加速することで持続的な安定収益の拡大を目指す



三菱食品は

「食のビジネスを通じた持続可能な社会の実現」に向けて

あらゆるステークホルダーの皆様とのパートナーシップを通じて

企業価値の拡大を目指します

三菱食品